アンケート調査に基づく患者さんの本音

大野綾子¹⁾，布瀬川和恵¹⁾，牧 宏佳²⁾

The Real Opinion from the Patient Based on Questionnaire Survey.

Ayako Ohno, Kazue Fusegawa, Hiroyoshi Maki

It is difficult to lead periodontal treatment to success. How will words of periodontal disease be recognized by the public? We did a questionnaire survey to know recognition of periodontal disease and opinion of the patient. From this survey, we were able to know a true opinion for periodontal treatment from the patient.

皆さんは、患者のモチベーションを上げるために、さまざまな工夫をされていることだろう。しかし、実際の臨床においては、歯周治療は思い通りに進むとは限らない。歯周病という言葉は、メディアを通じて一般の人に認知されているように思われがちだが、どの程度理解されているのかはわからない。

そこで、今回は歯周病の認識度、モチベーションが上がったきっかけ、今後のセルフケアにおける患者の生の声を知るために、アンケート調査を行った。調査結果から、歯周治療に対する患者の本音を知ることができたので、その結果を報告する。

Key words：モチベーション、歯周病の認知度、セルフケア

緒言

歯周治療を滞りなくスムーズに進めたいとは誰もが考えていることだが、患者の口腔内に対する考え方や生活環境がさまざまであるため、簡単には進まないのが現状である。しかしながら、少しでも患者の気持ち、行動、あるいは口腔内に変化が出てくれば術者のやりがい膨らみ、このような変化を見ることが歯周治療の醍醐味でもある。

術者側の考える歯周治療のポイントは2つある。1つは、患者・歯科医師・歯科衛生士が三位一体となり治療に取り

組むことである。そしてもう1つは、患者のモチベーションを高めることである。より円滑に歯周治療を進めるためにはこれらが重要な鍵を握っていると言えるが、実際は術者側の思いが患者側にうまく伝わっていないことが多い。しかし、うまくいかない例ばかりではなく、モチベーションを確立できた患者も数多くいる。

そこで今回、モチベーションが確立できた患者にスポットを当て、術者側のどのような事項がきっかけとなったのかを探るべくアンケート調査を行なった。その結果を報告する。

*¹ ナオ歯科クリニック 歯科衛生士 *² ナオ歯科クリニック 歯科医師

歯周治療に関するアンケート

- 1・歯科医院に来たきっかけは何ですか？
- ・歯が痛い ・歯ぐきが痛い ・あごが痛い ・歯科検診
 - ・歯がグラグラする ・治療が必要だと思う ・歯石を取りたい
 - ・歯ぐきから血が出る ・入れ歯が合わない、痛い
 - ・歯並びが気になる ・口臭が気になる
- 2・歯科医院に来る前、歯周病についてどんな病気が知っていましたか？
- ・知らなかった ・なんとなく知っていた ・知っていた
 - ・なんとなく知っていた、知っていたに○をつけた方にうかがいます。
- 歯周病は、どのような病気だと思っていましたか？
- ・歯ぐきの病気 ・歯がグラグラする ・骨が溶ける ・うみが出る
 - ・歯ぐきがはれる ・歯が痛くなる ・歯が抜ける ・全身に影響がある
 - その他 ()
- 3・当医院で説明や治療を受けてから理解できましたか？
- ・理解できた ・分からない
- 4・理解できたという方は、歯周病を理解するにあたり下記的项目から分かりやすかったものに○をして下さい。
- ・歯科医師から説明を受けて ・歯科衛生士から説明を受けて
 - ・歯科医師と歯科衛生士の両方の説明を受けて
 - ・口の中の写真 ・ビデオ ・模型 ・自分の模型 ・歯周病の図 レントゲン
 - ・口の中を鏡でみて
 - ・歯周病の検査結果 ・個別指導（歯科衛生士の予約）
 - ・説明を1回で理解できた ・回数を重ねるごとに理解できた
 - ・その他 ()
- 5・説明や治療を受けてからどのようにして努力しましたか？
- 1日の歯磨きの回数が増えた 1回の歯磨きの時間が増えた
 - 自分にあう薦められた歯ブラシを使っている 歯科衛生士の指導通り磨いている
 - 補助用具を使う（インタースペースブラシ 歯間ブラシ フロス（糸ようじ） コンタール）
 - その他 ()
- 6・今後、指導を受けなくてもこの状態を維持できますか？
- 自分で行える できない 検診でみてもらわないと不安
 - 自分で行えるとお答えした方は、どのようにして維持していますか？
 - できないとお答えした方は、どうしてそう思いますか？
- ご協力ありがとうございました。 ナオ歯科クリニック

図1 アンケート調査の際、使用した質問事項。

対象およびアンケート内容

1. 調査対象

被験者は、歯周治療においてモチベーションが確立された患者のみを対象とするために、平成18年2月から4月までの2ヵ月間に、自主的にメンテナンス希望で来院された患者を対象とした。その中からアンケートの趣旨に同意を得られた36名を調査対象とした。なお、当院からの連絡を受けて、メンテナンスに来院した患者は対象から除外した。

2. アンケート内容

アンケート内容を図1に示す。このアンケートには大きく3つの目的が含まれている。

- 1) 歯周病の罹患、認知度について
- 2) 説明の理解度、使用ツールについて
- 3) 今後の口腔健康維持について

今回のアンケートは、モチベーションが確立されている患者を対象としているが、最初から確立されていたわけで

来院当初、歯周病という言葉を知っていましたか？

図2 歯周病に対する認知度の把握。

はない。したがって、最初に来院した時点での歯周病に対する知識や関心度がどの程度なのかを調査することで、一般的な歯周病の認知度の把握を目的とした。また、歯周病は慢性的な疾患で痛みをとまなわないので、患者自身に理解してもらうのが非常に難しい。そこで、どのような説明が効果的か、あるいは説明時に使用するツールで患者に理解されやすいものは何か、も調査することにした。さらに、治療後の歯周病に対する患者の意識はどのように変化しているのか、ということもアンケートの内容に組み込んだ。

このように、治療前・治療中・治療後の時間経過を追うことによって、患者の歯周治療に対する本音を探れるようなアンケートを作成し、調査を行った。

結果

アンケート調査の結果を図2-7に示す。被験者の来院するきっかけはさまざまであった。共通して言えることは、口腔内の痛みや違和感が歯科医院へ行くきっかけになっているという結果であった。歯周病についての認知度では、「知らなかった」が25%「なんとなく知っていた」が66%「知っていた」が19%と回答した。誰の説明が分かりやすかったか、という質問に対しては「歯科医師と歯科衛生士双方からの説明」が50%「歯科医師のみ」が19%「歯科衛生士のみ」が31%と回答した。さらに、説明時に使用する分かりやすかったツールは「口腔内写真とプロービングチャート」がともに25%、「実際の口腔内（手鏡）」は20%、「X線写真」は13%、「歯周病の病態図」は10%、「ビデオ」は5%、「顎模型」は2%との回答が得られた。さらに、説明を受けた後の患者の努力については、補助器具の使用が100%を始め、ブラシ時間の増加や、回数の増

図3 説明を受けての理解度の内訳。

図4 患者にとって理解しやすかったツール。

加など口腔内に対する意識が改善されている結果が認められた。今後の口腔内の維持管理については、保てる、保てないが50%ずつと回答した。

考察

1. “歯周病 罹患”の認知度について

歯周病という言葉自体は、TVや新聞、雑誌などの影響もあり「知っていた」と答えた患者が19%「なんとなく知っていた」と答えた患者が66%と、全体の半数以上の患者が何らかの形で知っていた。

しかし、歯周病という言葉は知っていても、どのような病気か？という病気の内容に関する知識は低いのが現状であった。その理由としては「過去に他院で治療を受けていても歯周病についての説明や、ブラッシング指導などを受けた経験がない」という声が聞かれた。

そこで、担当歯科衛生士が歯周治療を理解してもらうために、歯周病とはどんな病気か？どのような治療が必要か？といったことを個々の患者に合わせて説明を行うと、「まさか自分が歯周病に罹患しているとは思っていなかった」と驚く患者が多かった。

このようなことから、歯科医院への来院のきっかけは、「歯が痛い」「ムシ歯ができた」と、患者自身が痛みや違和感を感じている場合がほとんどで、痛みや自覚をともしない歯周病については、一般的に認知度が低く、患者が来院して説明を受け、初めて知るケースが非常に多いことがわかった。

2. 説明の理解度、使用ツールについて

歯周治療を開始するにあたり、まず歯周病についての説明を行うと、今まで「知らなかった」「なんとなく知って

いた」患者も、歯周病とはどんな病気なのかを理解し、自身の口腔内の状態を知り、治療の必要性やブラッシングの重要性を理解してくれる。

当院のシステムは患者担当制になっており、歯科医師のアポイントとは別に歯科衛生士のアポイントを取ってもらい、歯周治療をより円滑に進める体制となっている。歯周病を患者に説明するにあたり、歯科医師と歯科衛生士双方からの説明が一番効果的であった。歯科医師の説得力の強さや、歯科衛生士ならではの優しく丁寧な説明がうまく折り合い、このような結果を生み出したと思われる。

説明時には、患者自身のデータを用いることが一番効果的であり、実際の口腔内と照らし合わせてみることで、より理解を得ることができるようだ。X線写真を用いて、骨欠損の状態などを説明することも多いが、患者にとってはレントゲンそのものの見方が難しく、残念ながらこちらが思っているほどの効果は得られていない。また、一回だけの説明では「なんとなく分かった」程度にし過ぎず、回数を重ねるたびに、患者の理解度も深まることが分かった。

理解を得たうえで、実際に患者が行ったことは、補助用具の使用やブラッシング時間、回数の増加、磨き方の変化などが多く挙げられた。患者自身がセルフケアの重要性を認知し、行動に移していることがわかる。

これらのことから、歯科衛生士による個々の患者に合わせた熱心かつ丁寧な指導が、患者の心を導いて理解を深め、行動変容に繋がったと考えられる。

3. 今後の口腔健康維持について

歯周治療が進められ、患者のモチベーションが確立し、口腔内も改善していくと、その健康な口腔内をいかに保てるかが重要になってくる。患者はメンテナンスの重要性

図5 説明後の患者の行動変容。

図6 アンケート調査結果からの考察。

を理解しているはずだが、今後、歯科衛生士の継続した指導がなくとも、現在の健康な口腔内を保てるか？ という問いに対しては意見が半分に分かれてしまった。「セルフケアができていても、やっぱり不安、歯科衛生士さんにみて欲しい」といった患者は積極的に予約を取り、来院率も高く口腔内も改善している。歯科医師、歯科衛生士、患者の三位一体の治療の必要性を十分に理解している結果であろう。しかしながら、歯科衛生士の指導がなくても大丈夫！と自信満々の患者の実際は、予約も消極的であり、ブラークコントロールも悪い場合が多い。ただ、セルフケアで保てると答えた患者でも“歯科衛生士の継続的な管理が必要”ということは承知している。そのため「歯科医院には行かなければならない」という気持ちはあるので、定期的な来院につながっていると思われる。この“保てる”と答えた50%の患者の心理を、今回のアンケートで知り、改めてメンテナンスの本当の意味と、歯科衛生士の必要性について考えるきっかけとなった。

結論

今回のアンケート調査結果から、患者の歯周病に対する認知度は低く、さらに患者自身が歯周病に罹患しているという認識も低かった。しかし、熱心かつ丁寧な指導により歯周病への理解を深めることが可能なことも明らかになった。口腔内の健康を維持していくためには、歯科衛生士の

図7 口腔内健康維持に対する患者の意見。

継続した指導および管理が必要であることは承知しているものの、半数の患者が歯科衛生士の指導がなくても口腔内を維持できる、という意外な回答が認められた。自主的にメンテナンスに来院されている患者であっても、術者側が思っているほど管理の重要性が患者側に伝わっていないことが今回のアンケートを通じて浮き彫りになった。以上の結果より、歯周治療におけるモチベーションの維持、確立はやはり難しいという結論に至った。

参考文献

- 1) 寺岡加代他：歯科医院のイメージとコミュにケーションギャップ。デンタルハイジーン，24：628-642，2004。
- 2) 深井穂博：コンプライアンスの意味を考える。歯科衛生士，26：12-17，2002。
- 3) 清水雅雪：Let's start 歯周初期治療おさえておきたい臨床のポイント。医歯薬出版（東京），2002。